

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日:2012年1月8日

所属:教育文化学部/国際言語文化課程/国際コミュニケーション選修4年

氏名:大瀧 遥

派遣先大学名:セントクラウド州立大学(アメリカ)

在籍身分:交換留学生

渡航年月日:2011年1月3日

帰国年月日:2011年12月21日

○派遣先大学における授業等の履修状況

※1時間=50分

2011 Spring Semester (1月~4月)

講義名	講義時間(時間/週)	修得単位数
ESL and Culture	3	3.0
Administrative Orientation for International Students (前半のみ)	2	1.0
Listening and Speaking for Academic Purpose	4	4.0
Reading and Writing II	4	4.0
Campus Band	2	1.0

2011 Summer Session (5月~6月/集中講義:5週間)

講義名	講義時間(時間/週)	修得単位数
Introduction to Communication Studies	8	3.0

2011 Fall Semester (9月~12月)

講義名	講義時間(時間/週)	修得単位数
Interpersonal Communication	3	3.0
Intercultural Communication	3	3.0
Public Speaking	3	3.0
Campus Band	2	1.0
Global Society and Citizenship	3	3.0

私は 2011 年1月から同年 12 月までの約1年間、アメリカ、ミネソタ州のセントクラウド州立大学で勉強してきました。この1年間の経験はどれも貴重で、大切で、将来の私の糧になるものばかりだったと思います。

私が留学生活の中で最も力を注いだのは JP ネットワークでの活動です。JP ネットワークは、日本に興味があれば誰でも参加できる、日本でいうところのサークルのようなものです。私は、セントクラウドに到着したときから親切にお世話してくれた日本人の先輩の誘いで参加するようになりました。前半の学期には、Japan Night という、サークル主催の大きなカルチャーイベントがありました。その中で私は日本の昔話を英語で演じたり、流行のアイドルグループのダンスを披露したりして会場を盛り上げました。裏で

は、イベント中に配る日本食の調理も行いました。イベントには300人以上の来場があり、大成功のうちに終わらせることができました。後半の学期は、JP ネットワークのイベントコーディネーターに就任し、より主体的にサークルを動かしました。具体的には週一回のミーティングの運営のほか、イベントの企画立案、交通手段の手配からレストランの予約まで、イベント成功のために



裏からサークルを支えていました。その他にもキャンパス内で開かれた、Global Social Responsibility Conference において、東日本大震災と福島第一原子力発電所の爆発、それらの被害についてプレゼンを行いました。日本人としての自覚や責任感がよりいっそう強くなった印象的なイベントでした。

授業については、前半の学期は英語の学習が主でした。授業外で会話サークルに参加したり、レポートを添削してもらったり、英語力のレベルアップに力を入れました。日本と比べて、予習の量が多く、ひ

いひい言いながらやっとこなしている感じでした。後半になると、英語でのコミュニケーションにも慣れてきて、自身の専攻分野を勉強することができました。国際コミュニケーション選修に所属している私は、コミュニケーション学を中心に授業を取りました。文化間や個人間のコミュニケーションについてより深く学べたので、今後の卒論研究に役立てていきたいと思います。その他には、吹奏楽の授業を受けていました。バンド自体は小規模なものではありましたが、学期末のコンサートで、オーディションの末に勝ち取ったソロを演奏す



ることもできました。その際にはポスターに名前が載ったり、プログラムに顔写真が載ったり、たくさんの友人が駆けつけてくれて、すばらしいコンサートとなりました。

私は、卒業を1年延ばして留学する道を選びました。しかしその1年は、日本には体験できなかったことを体験し、出会えなかった人に出会い、貴重な思い出をたくさん作った素晴らしい1年でした。辛い思いをしたこともありますが、この1年のおかげで私はよりいっそう大きく成長することができたと思います。私の留学を応援してくださった先生方、家族、友達。そして留学先で出会ったたくさんの人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。貴重な経験と素敵な思い出をありがとうございました。

